



## 開発建設部

# 平成25年度の水に関する動きについて

沖縄総合事務局開発建設部においては、平成25年度の水に関する主な動きをまとめております。

## ①離島における少雨状況について

平成25年は沖縄本島だけではなく、周辺離島でも降雨が少なかったため、一部離島では制限給水が行われる厳しい状況となりました。

た。

このうち、久米島町においては、平成25年8月22日から夜間断水(21時～翌朝6時)が実施され、8月31日から中断し、平成26年3月11日に正式に解除されました。

また、座間味村では平成25年10月1日から夜間断水(21時～



## ②宜野座村大川ダムの代替取水と漢那ダムからの代替取水停止と

平成25年8月5日に発生した米軍ヘリのキャンプ・ハンセン内への墜落事故により、宜野座村は、村管理の大川ダムからの取水を緊急停止しました。

宜野座村は、沖縄県に対して大川

ダム取水停止に伴い村内に給水不可となつた1,000m<sup>3</sup>/日について、国管理の漢那ダムからの代替取水を要請し、県は、事態の緊急性に鑑み、宜野座村の要請を受けて漢那ダムからの代

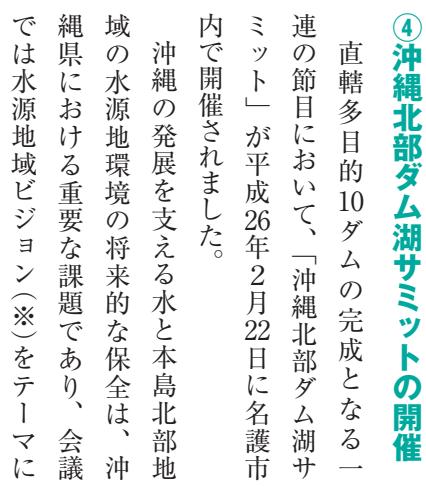
替取水を了承し、即日実施しました。今回の取水については、宜野座村が漢那ダムに対して保有している既得農業水利権のうち、現在、使用していない分について沖縄県は水利権(河川法第23条)の処分で処理を行っています。なお、大川ダムについては、平成26年8月13日より取水が再開されました。

## ③金武ダムの完成

建設中だった億首ダムは、平成26年2月に金武ダムに名称を変え、同年4月より供用を開始しております。

(旧)金武ダムは億首川にある水道専用の

ダムの規模は(旧)金武ダムと比較して高さが約3倍、総貯水容量は約10倍となっていました。



## ④沖縄北部ダム湖サミットの開催

直轄多目的10ダムの完成となる一連の節目において、「沖縄北部ダム湖サミット」が平成26年2月22日に名護市内で開催されました。

沖縄の発展を支える水と本島北部地域の水源地環境の将来的な保全は、沖縄県における重要な課題であり、会議では水源地域ビジョン(※)をテーマに

議論を行い、具体的な行動の第一歩としてサミット宣言が取りまとめられました。

は1日最大4万トンの海水淡水化水を生産できる国内最大級の施設として、供用をはじめています。

沖縄本島においては、平成25年は6月～9月の少雨のものは、ほぼ平年並の降雨はあつたものの、年間を通しては平年を下回る降水量であり、冬場である12月から2月はダム貯水量の減少傾向が予想されました。

平成26年1月31日、沖縄県企業局は貯水率の減少傾向が続いた場合を想定した対応策として、海水淡水化施設の

最大稼働を2月から開始することを決定したと発表しました。

最大稼働は2月4日～3月18日まで実施され、その間、合計1,311,7万トンの水が供給されました。これは1日平均にすると約3万トンが供給されたことになり、国・県・企業局ダムや河川・地下水も含めた上水道の日需要量に占める割合は約7%となり、その分、国・県管理ダムの貯水を温存する効果を発揮しました。

## ⑤海水淡水化施設フル稼働

(※) 水源地域ビジョン ダム(水)を地域の資源と捉え、水源地域の自主的・持続的な活性化を図るために、ダム水源地の自治体・住民や関係行政機関で策定する行動計画です。

沖縄県企業局の施設である海水淡水化施設は、沖縄県北谷町にあり、平成5年度に着工され、平成9年4月から

### 沖縄北部ダム湖サミット宣言

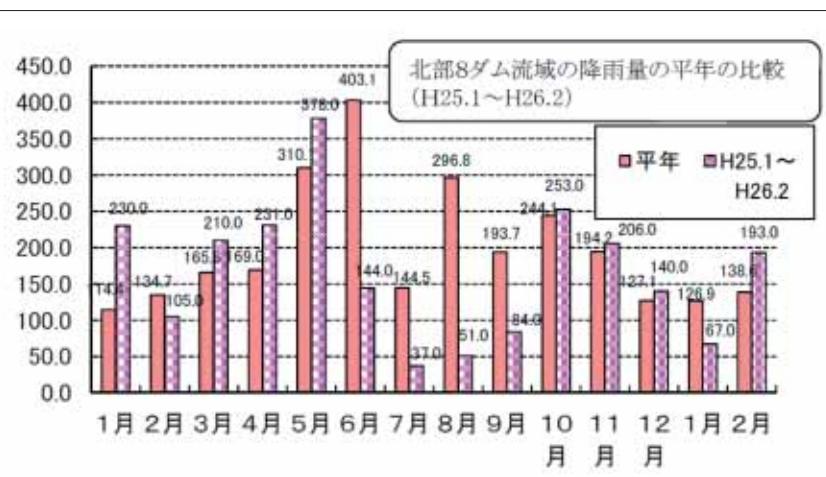
私たちは、沖縄北部ダム湖サミットにおいて、やんばるの自然と水の大切さを念頭に、以下のとおり理念や方針を共有し、具体的な行動の第一歩とする。

- 一 やんばるの貴重な自然は沖縄の宝であり、本島における貴重な水源地でもあることから、県民全体で森を守り、水を守ることが重要。
- 一 水源地やんばるの自然やダム湖の魅力を活かした活動を通じて、森や水の大切さを広く認識してもらえるように努力。
- 一 ダムの存在する北部地域の連携のみならず、中南部地域との交流・連携を促進。

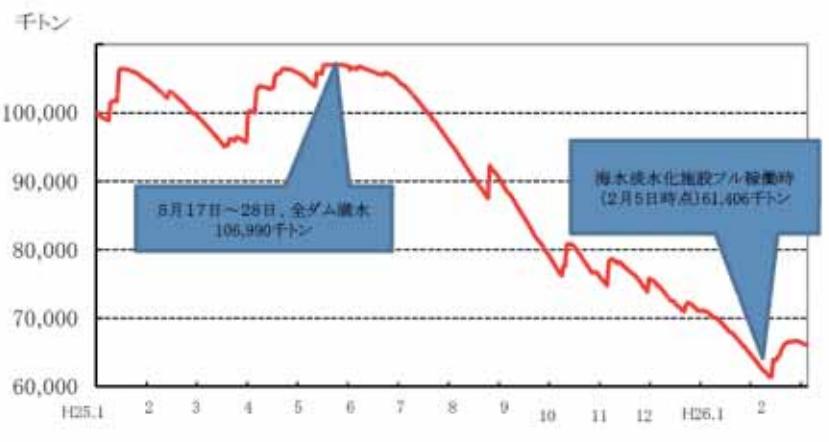
平成26年2月22日  
沖縄北部ダム湖サミット参加者一同

### 【今後の展開(案)】

- ①ダム個々の水源地域ビジョンから総合的なビジョンを策定する
- ②水源地北部地域と中南部地域等との交流・連携の場を創出する



### 沖縄本島11ダム貯水量の推移 (H25.1～H26.2)



## ⑥連続給水20周年

平成26年3月1日をもって、沖縄県企業局は連続給水20年を迎えました。

最後の給水制限が実施されたのは平成6年3月1日でした。

最後の給水制限が実施された平成6年以降も平均降水量を下回る少雨の年はあつたものの、倉敷ダム(平成8年)、海水淡水化施設(平成9年)、羽地ダム(平成17年)、大保ダム(平成23年)が次々と完成・稼働されており、水資源の安定供給に資しています。今年(平成26年)金武ダムが完成し、ダム建設による水資源の開発はひとつの節目を迎えるました。

